

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174100560), 法人名 (有限会社 M&Y), 事業所名 (グループホーム鶴ヶ岱 II), 所在地 (釧路市鶴ヶ岱3丁目7番5号), 自己評価作成日 (令和5年10月28日), 評価結果市町村受理日 (令和6年3月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱2階ユニットは1階に小規模多機能があり、向かい棟に同じグループホーム1階を有して居ります。近くに学校や春採湖、ショッピングモールもあり立地的に大変良い環境となっております。コロナ禍が続く買い物同行や散歩等の外出が出来ていませんでしたが、5類移行に伴いようやく普通の生活を取り戻し始めております。その為施設内で行うお誕生会その他、行事等で季節を感じられるよう工夫をしています。殆どの利用者様は歌番組がお好きのためビデオ録画を楽しみながら、気の合う利用者様同士の談話を珈琲タイムに楽しませている明るい雰囲気です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0174100560-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年2月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を、日常業務や職員会議を通し職員間で共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域行事の参加や行動が制限され交流が出来なかった。同じ事業所間の往来も気遣われる時期もあり、美容師の訪問など一部に限られた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やご家族さまへの会議報告書や通信で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により対面会議は1回にとどまり、他は文章会議となった。資料に対してFAXでご意見をいただき、よりよいサービスに向けて活かして行ける様気をつけている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、日常業務を通し事業所の取組みなどから指導や助言を得ながらスムーズな協力関係が気づけるよう気を配っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中止となり、外部研修・内部研修を通し禁止対象となる具体的な行為を正しく理解し、抑制や拘束とならぬよう気をつけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し高齢者虐待防止法について学ぶと共に会議や日々の申し送り等で情報の共有を図り防止に向け注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要に応じ、制度の活用に向けた理解、支援を為している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の際は十分に説明を行い理解、納得が得られるように努め、同意書などの記録を残している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の希望や意見などを話しやすい環境づくりに努めている。外出ならドライブであるとか感染防止を行い面会など取り入れることが出来る事柄から運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談などで、意見や要望・提案を聞く機会をもうけ運営に反映為している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や努力を把握し、労働時間・やりがいなど各自の向上心などを考慮し、給与水準や職場環境など、他社と比較しても劣ることがなく安心して勤務できるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、資格取得にむけたサポートや法人内外の研修を受ける機会を周知し積極的に向上心が持てるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議がリモート主流となり、会社内の他事業所管理者が集まる席で相互間の活動やサービス状況を知ること互いに質の向上が図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望がある段階で、本人の生活歴や心身の状態、困っていることや不安に思うことなど聞き取り本人が安心して生活出来る信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族から情報を聞き取る際には、不安や要望などから必要とする支援を見極め、柔軟に対応できるように要望などに耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から情報の収集に努め必要としている支援を明確にし柔軟に対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が暮らしを共にする者として良い関係作りが出来る様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信やその他体調報告や支援内容など気軽に連絡を取り合い、ご家族と本人の絆を大切にしながら職員とご家族が共に支え合っていけるよう関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を理解し、途切れてしまわないよう支援しているがコロナ禍のため可能な限りという支援になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う利用者との関わりを増やし笑顔や笑い声が増えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を大事にし年賀状でご家族からの近況を知らせていただくなど、こちらから関係を断ち切る事が無いようフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を把握し、できるだけ本人の意向に添った生活になるよう支援しているがコロナ禍で代替え案など提示させていただくことも多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時からの生活歴や生活環境、サービス利用の経過状況等把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の暮らし方、心身状況、有する力等の現状を、生活記録や職員間の連絡ノートを活用して情報の共有が出来る様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンス会議のほか、センター方式を利用して現状に即した意見やアイデアを出し合い、本人を含めた必要な関係者の意見も取り入れながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調や日々の様子を記録に残しケアの実践内容や結果を職員間で共有し、介護計画の手直しや追加など見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やが家族の状況を把握しその人らしい生活出来る様、柔軟な支援やサービスを提供出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かし楽しみにしている外出支援や買い物同行などが、5類移行に伴い復活始めている。状況を見ながら不満とならぬよう豪華客船を見学に行くなど始めており、豊かな気持ちを持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族、医療機関と連携をとりながら、適切な医療を受けられるよう事業所とかかりつけ医が関係性を築き努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の暮らしの中で得た情報や気づきを職場内の看護師に伝え、相談や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して治療が出来る様病院関係者やご家族と情報交換や相談に努めている。また病院の医療相談室などの関係作りにも気を配っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期にむけたあり方については、入所時に始まり早い段階から本人・家族と話し合いを行い事業所で出来る事、出来ない事などを説明し方針を共有して医療関係者と共に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を研修を通し実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、都度振り返りで情報の共有を為している。町内役員の方々も駆けつけ協力して頂いていたが、コロナ禍のため参加は出来なかった。色々な災害を想定し繰り返しの研修が必要と思われる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇りを尊重し、自尊心を傷つけないよう言葉かけには気をつけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、思いや希望を伝えたり自己決定を引き出せるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重し出来るだけ希望に沿って支援出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んで着用される方が多いので、季節に合ったおしゃれや身だしなみを整えられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみながら、準備や片付けを職員と共に個々の持てる力を活用している。また個人の好みや配膳に気を配って居る。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により病院より指示が出ている場合もあるので、量やバランス、形態等に気を配り、食事摂取が出来る様よう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア介助の必要な利用者は食事毎に全介助・及び声掛け誘導支援を為している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を増やし、排泄の失敗を少なく出来る様自立にむけた支援を為している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、飲食物の工夫や運動の働きかけと共に医師より下剤の処方をして頂き、看護師と服用相談を行いながら、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるよう、要望やタイミングに合わせて入浴して頂けるよう支援為っている。浴室での入浴が出来なくなった方には、体調等をみながら全身清拭での対応とさせて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じ、休息したり安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用為っている薬の効果や副作用に気を配り、服薬の支援と症状の確認、記録を残すなど器量との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から、力を活かした役割分担を行っている。好きな楽しみごとをレクなどにとりいれ気分転換が図れるよう支援為っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、殆どの外出支援は出来て居なかったが、5月に移行後は家族の面会や買い物同行など徐々に以前の生活に戻り始めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者は、お金を所持したり買い物に依頼した分の支払いをされるなど、出来る事の支援を為している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を持参されている方は、自由に家族と連絡を取り合っている。他利用者がご家族に連絡を希望されることはなかった。毎週のように物品を届けられるご家族に、希望等を書いた手紙を利用者本人が渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は快適に過ごせるよう、光や風。温度などにも配慮を為している。生活感や季節感をだせるよう壁の展示物にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考え、食卓椅子の配置を為している。談話などで、そのままソファーに移動しての時間もあつたり、他利用者の居室を訪問する場面もあり、できるだけ自由に生活していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・ご家族と相談し、本人が使い慣れた物や、好みの物を居室に置くことで、居心地がよく過ごせるよう提案・工夫を為している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、分ることを把握し、安全に配慮しながらトイレまで手摺りを伝って歩いて頂く等、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫を為している。		